

支店長の わがまち紹介 第86回



「関東の嵐山」 御前山と清流那珂川

城里町

筑波銀行は地域金融機関として、地域の皆様との密接な繋がりを持たせていただいております。「支店長のわがまち紹介」は、筑波銀行の支店長が所在エリアの市町村をご紹介させていただくコーナーです。

今回は茨城県東茨城郡城里町です。常北支店長が城里町長 上遠野修氏にお話を伺いました。

城里町は第33回(2016年4月)の本コーナーでご紹介させていただきました。改めまして、城里町の魅力や特徴、展望についてお聞かせください。

(取材日:2020年7月6日)

■ 子育て支援のトップランナー

城里町の最大の魅力は、子育て支援に関して、一歩先を行く施策を展開していることです。国の子育て支援策として「保育料の無償化」が始まったのは令和元年の10月です。しかし、本町では、平成28年4月より段階的に3・4・5歳児の保育料無償化を始めています。また、新型コロナウイルス感染症に関わる収入減等を理由に、現在各地で叫ばれている「給食費の無償化」も平成28年4月より行う等、本町は子育て支援のトップランナーであると自負しています。

平成26年以降、東京一極集中を是正し、地方の人口減少に歯止めをかけ、日本全体の活力を上げることを目的とする地方創生の一環として、移住促進事業等が行われてきました。

しかし、都市部から地方へ人口を移動させても、日本全体で見れば、人口増加にはなりません。私は、本町だけでなく日本においても最大の課題である「少子高齢化」を克服するために行政が行う



城里町長
上遠野 修氏



常北支店長
殿塚 貴之

べき施策は、「子育てに掛かる費用を安くしていく」ことに尽きると考えています。

各市町村が保育料や給食費等の無償化競争を行えば、結局は若い人の取り合いになるのではないかという意見もあります。しかし、私は、むしろ子育て支援の競争になることで、日本全体として子育てに掛かる家庭の経済的負担が軽減され、いずれは、日本全体の出生率増加につながるはずだと考えています。現に、本町では、2人以上の子を持つ家庭が多くあります。

また、本町では、公共交通機関を利用して高等学校に通学する子を持つ保護者の経済的負担を軽減するため、年間通学定期券代の3割相当額(上限額8万円)を補助する「高等学校通学費助成事業」も平成28年4月から行っています。

本町の子育て支援モデルが県内各地に広がり、結果として本町の人口増加につながればよいと考えています。

■新築住宅取得支援で地域経済も活性化

本町では、良好な住環境の促進と未利用地等の有効活用を図るため、町内に土地を購入し、住宅を新築、または購入した方に、土地の購入額の10分の1(上限25万円)を補助する事業を実施しています。

また、新築住宅工事に関して、工事金額の10分の1(上限50万円)を助成する事業も行っており、2つの事業を合わせると、最大75万円が助成されます。

これらの助成金は、町内の施工業者を利用する等の一定条件を満たせば、本町住民と町外からの転入者の区別もなく、誰でも利用することができます。そのため、新築住宅の施主の経済的負担を軽減するだけでなく、地域経済の活性化にもつながっています。



新築住宅の一例

■飼料用米生産への助成で日本の稲作を守る

本町の農業政策で一番特徴的なことは、飼料用米に対する補助が手厚いことです。

日本では、人口減少や食の欧米化が進み、年々主食用米の需要が減少していることから、国は「産地交付金」¹や「戦略作物助成」²等の助成を行い、飼料用米への転換を促しています。本町では、さらにこれに上乗せする形で、10aあたり10,000円を助成しています。

さて、農業の持つ本来の役割は「国土保全」や「食料自給率の維持」等です。私は、海外からの輸入品が途絶されるような非常事態となっても、国民を飢えさせないことが、農業政策の究極の目標であると考えています。そして、水田農業が日本の農業の根幹であり、水田を荒らさず耕作し続けられることこそが、本町の農業施策が成功している証だと考えています。

ぜひ、本町を縦断する国道123号バイパスの坂から桂地区に広がる景色を眺めてみてください。耕作放棄地もなく、作付けされた真っ青な水田が一面に広がっています。この美しい景色こそが本町の誇りであり、離農を防ぎ、農業政策が成功している証拠です。



国道123号バイパスから望む桂地区の景色

私が町長に着任して以降、主食用米から飼料用米へ転換した農家が多くなりましたが、飼料用米への転換は、主食用米の相場下落を防ぐとともに、持続的に水田を守るための必要な施策です。ぜひ、飼料用米の生産農家の皆さんは誇りを持って取り組んでほしいと思っています。

また、飼料用米のみならず、主食用米の生産も盛んです。

本町の七会地区では、収穫量よりも食味にこだわったお米「ななかいの里コシヒカリ」が作られています。ななかいの里コシヒカリは、全国から集めた自慢の米のおいしさを競う「お米日本一コンテストinしずおか2011」で最優秀賞(日本一)を受賞し、2012年、2013年にも金賞を受賞、「城里町ブランド推奨品」に認定されています。

作付面積は町全体の中で見ればとても小さいのですが、このような美味しいお米の生産も応援しています。

最近の農業政策というと、「大規模集約化」というイメージがあると思います。県も「茨城モデル水稲メガファーム育成事業」を進めていますが、本町では、増井地区で数名の担い手に53haを集約させる土地改良事業を行っており、町も協力しています。

一方で、最近では小規模な農家が沢山あった方がよいという考え方もあります。私は町長になって以降、様々な方と交流を持つようになりました。そして、農家の皆さんはみな元気で、80代でも農作業を続けている方が多くいらっしゃることを知りました。農作業が健康の維持につながっている

1: 生産者と実需者との間で3年以上の複数年契約の販売契約を締結した場合に10aあたり12,000円が交付される
2: 収穫量に応じて55,000円~105,000円が交付される

るようです。そのため、医療費や介護費の削減に対して農家が果たしている役割を、もっと評価すべきだと考えています。

■スピード感のある施策で暮らしやすいまちへ

本町は仕事が早いことも魅力です。私は民間企業の経験が長かったため、町長になって以降、そのスピード感で理にかなった政策を展開してきました。しかし、振り返ってみると、本町は代々の町長や村長、職員が素晴らしいスピード感を持って様々な施策に取り組んできたことがわかります。

その1つに、新庁舎の竣工が挙げられます。東日本大震災以降、耐震性不足等を理由に新庁舎の建設を決めた県内の市町村のうち、一番最初に新庁舎を竣工したのは本町です。新庁舎の竣工ラッシュは2~3年前でしたが、本町では平成27年3月に竣工し、既に5年が経過しています。

また、最近ブームになっている道の駅も茨城県第一号は、本町の「道の駅かつら」でした。



道の駅県内第一号の「道の駅かつら」

直近では、令和2年4月20日に閣議決定された「新型コロナウイルス感染症緊急経済対策」により決定した「特別定額給付金」の支給が挙げられます。本町は他市町村を圧倒する速さで処理を行いました。

申請書の送付は県内で最も早い5月11日で、「その日届いた申請書はその日のうちに処理する」ことを基本に作業を行い、町民が申請書を役場に送付した3~4日後には振込みまで完了しているような状態でした。

もちろんすべてが同じ速さで処理できたわけではありません。混雑時には申請から1週間ほどの時間を要したこともありました。しかし、9割の支払いを5月中に終わることができました。

新聞報道では処理が速い自治体として本町以外の名前が出ていたようですが、町民の間では「城里町の方が早いね」と評判になっていたようです。

■流れを見極め、健全な未来を築く

現在、本町の財政は健全です。地方交付税等が優遇されていることもありますが、予算編成で新たな事業を行う場合に、常に財政部門と議論し、特別な起債等、その時に最も有利な財政制度を活用していることが大きな理由です。

実質公債比率は高いのですが、起債の大部分が70%を超えるような交付税付きのものであり、実質的な町民負担はあまりありません。

例えば、昨年、本町では学校のエアコンを全校一斉に設置しましたが、実はその前年まで普通教室への設置率は0%でした。

通常、学校にエアコンを設置しようとする、半分程度の費用が自治体負担となるため、数年がかりの事業になります。しかし、昨年は与党の参議院選挙時の公約により特別な起債等が認められ、町の負担が実質2割程度にまで下げられたため、一度で一気に100%まで整備しました。

また、本町では児童生徒に1人1台のタブレット端末の配付を行ってきませんでしたが、これについても今年度一気に配付率100%にするつもりです。今年度は国の補助率が非常に高く、さらに県がパソコンの共同調達も行うため、調達単価が下がる絶好の機会だと捉えています。

このように、補助率が高い起債等が時限措置で時折出てきます。本町では、このようなタイミングを掴んで予算編成を行うようにしています。

新たな事業を先行することは、目立って格好よく見えるでしょう。しかし、非常に割高で、実は効率の悪いことをしている可能性があります。

すべての分野で先行することはできません。世の中の流れを読み、今年何を行うと一番有利になるのか、先行するだけの価値があるのか等を常に見極める必要があります。そして、他より先行するもの、時機を待って行うものをその都度決定していかななくてはなりません。そのうえで、将来に残す借金を極力おさえた健全な財政であることを心掛けながら、町民が暮らしやすい施策を展開してまいります。

■筑波銀行に期待することをお聞かせください

銀行は様々な情報を持っていると思います。ぜひ、その情報を行政と共有させていただいて、地域発展のために使っていきたいと思います。

写真提供：城里町